学校教育高度化センターこの１年の活動

小玉 重夫（センター長・教育学研究科基礎教育学コース　教授）

はじめに

学校教育高度化センターでは、2010、2011年度の２年間、「学校における新たなカリキュラムの形成：次の学習指導要領改訂を展望して」を研究課題として設定し研究を行ってきた。それに引き続いて、本年度から２年間（2012、2013年度）の予定で「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーション」をテーマに研究プロジェクトを開始した。これは、昨年度に採択された科学研究費補助金基盤研究Ａ「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーションの理論的・実践的研究」（通称イノベーション科研、2011年度から2013年度まで）のテーマをその自体としてセンター全体の研究活動の中心に位置づけようという意図のもとに設定されたものである。

今年度のセンターは、センター長のもとセンター研究員（藤江康彦准教授、村上祐介准教授）および専任助教（植阪友理助教）のスタッフに加え、外国人客員准教授として韓崇熙（HAN Soonghee）教授（ソウル大学教育学科：2012年６月11日から７月10日まで）、マリリン・アイヴィ（Marilyn J. Ivy）准教授（コロンビア大学文化人類学科：2012年10月８日から12月８日）を迎えた。また、非常勤職員として、田中麻紗子教務補佐と、高橋徳子学術支援員が、センターの業務を支えた。

本年度の活動の概要

（1）　科学研究費補助金基盤（A）の研究

昨年（2011年）度から、科学研究費補助金基盤研究Ａ「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーションの理論的・実践的研究」（通称イノベーション科研）が採択され、本センターを中心として研究に取り組んでいる。このイノベーション科研は、2010、2011年度のセンター研究課題である「学校における新たなカリキュラムの形成：次の学習指導要領改訂を展望して」をもとに、それを発展させて、新たなカリキュラムの形成を「カリキュラム・イノベーション」として概念化しようとするものである。特に、アカデミズムにおける学問体系を高校・中学・小学校へとおろしていくように構成されていた従来の教科カリキュラムの構造を転換し、職業や政治経済を中心とする市民社会生活との関連（社会的レリバンス）を有するカリキュラム（社会に生きる学力形成）を構想しようとする点に、その特徴がある。

科研の研究組織としては「基幹学習ユニット」「生き方の学習ユニット」「社会参加の学習ユニット」の３つのユニットを設け、さらに、東京大学教育学部附属中等教育学校との連携を可能にするための組織として「総括ユニット」を設けて大学と附属学校等とを架橋するプラットフォーム的役割を持たせている。また、附属学校との連携に関しては、附属学校と研究科の教員が協働して、イノベーション科研に取り組む13の研究プロジェクトを立ち上げ、共同研究を進めている。

本年度は活動の２年目に入り、各ユニットと附属との連携による研究は、具体的な実践の提案を視野に入れながら進展している。その具体的な進捗状況は、本年報に報告が記載されている。

（2）　院生プロジェクトの実施

学校教育高度化センターでは、センターが設定した研究課題について、公募型の研究プロジェクトを実施している。本年度も、院生がカリキュラム・イノベーションへ向けての研究フロンティアを開拓する担い手となることを期待して、「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベ

ーション」のテーマに即した研究を公募した。その結果、大学院生グループ６件を採択し、2012年６月から2013年２月までの９ヶ月間研究を行った。６月、10月、１月に中間発表会を行い、３月６日には公開で最終発表会を行った。

本年度の院生プロジェクトの各研究は、教育の社会的存立構造を視野に入れつつ、学校と学校外との相互関係に注目してカリキュラムの改革を展望しようとしている点で共通の方向性を有していた。これは、イノベーション科研が追求しようとしている方向性とも重なるものであり、ある意味でそれを先取りする論点も提起され、実りある成果が上げられたと判断している。

各グループの成果は、本報告書にもその概要が記載されているので参照されたい。また、それとは別に、各グループの成果全文を収録した報告書を作成し、東京大学学術機関リポジトリにも掲載する予定である。

（３） 公開シンポジウムの開催

９月29日（土曜日）の午後１時から５時まで、本郷キャンパス内の福武ホール・ラーニングシアターで、センター主催の公開シンポジウムを開催した。「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーション−具体的な実践の提案−」と題し、中等教育における具体的実践の事例を提案しながら、公教育全体のイノベーションを議論した。

当日は、150名を超える参加者があった。シンポジウムの詳細は、本年報に収録している。

（４） それ以外の活動

「はじめに」でも記したように、韓崇熙（HAN Soonghee）教授（ソウル大学教育学科）、マリリン・アイヴィ（Marilyn J. Ivy ）准教授（コロンビア大学文化人類学科）という二人の外国人客員研究者を迎えた。両氏の活動報告はこの報告書に掲載されている。

また、研究科の教員が関わっている研究会等への後援を行った。これらについても、本年報に報告が記載されているので、参照されたい。

本センターでは、以上に記した研究活動以外に、研究科内での日常的な研究支援業務を行っている。たとえば、研究科の教員等が関わっている研究会や学会等へのパソコン、プロジェクタ、スピーカーなどの貸し出し、ホームページを通じたセンター関係の研究会情報の提供などである。

おわりに

今年は、イノベーション科研の二年目で、附属中等教育学校との共同研究が軌道にのり、具体的な実践の提案を視野に入れた研究活動を行うことができた。来年度は科研の最終年度になるので、研究のまとめと成果のアウトプットをめざして、活動を進めていきたいと考えている。

最後に、本年度のセンターの活動に際して、多大な支援をして下さった市川伸一研究科長、運営委員の藤江康彦准教授（副センター長）、恒吉僚子教授、牧野篤教授に、厚くお礼を申し上げたい。

センター組織

センター長	小玉 重夫（教育学研究科　基礎教育学コース）
副センター長・研究員	藤江 康彦（教育学研究科　教職開発コース）
研究員	村上 祐介（教育学研究科　学校開発政策コース）
運営委員	牧野 篤（教育学研究科　生涯学習基盤経営コース）
	恒吉 僚子（教育学研究科　比較教育社会学コース）
専任助教	植阪 友理（教育学研究科　学校教育高度化センター）
外国人客員教授	韓 崇熙（ソウル大学教育学科：6月11日～７月10日）
外国人客員准教授	Marilyn J. Ivy（コロンビア大学文化人類学科 ：10月８日～12月８日）
教務補佐	田中麻紗子（教育学研究科　教育心理学コース　博士課程）
協力研究員	村松　灯（基礎教育学コースＤ１）
協力研究員	園部　友里恵（生涯学習基盤経営コースＤ１）
協力研究員	譚 君怡（比較教育社会学コースＤ３）
協力研究員	冨田 知世（比較教育社会学コースＤ１）
協力研究員	齋藤 崇德（比較教育社会学コースＤ２）
協力研究員	櫻井 直輝（学校開発政策コースＤ２）
学術支援職員	高橋 徳子（教育学研究科　学校教育高度化センター）